
科学者と怪物

シンプル眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

科学者と怪物

【Nコード】

N8677Y

【作者名】

シンプル眼鏡

【あらすじ】

俺は怪物だ。制御しきれない力に誰しもが恐れ敬遠する。私は科
学者だ。至高の才は誰しもが手に入れたがり常に私の周りは狂って
いる。「すげえ寝みイ授業シネ。」「武藤くん！授業が死ぬという
表現はどういう意味なのでしょう？授業という生き物は存在しない
ので殺すのは不可能です、だとしたら、授業を行う荒塚先生を殺し
てしまえば必然的に授業は停止、これで死んだ事になるでしょうか
ね？ああ、でも停止⇨死と定義付けるのは安直ですね、教師という
存在は湧いて出る蛆の様なものなので荒塚先生が居なくなってもま

た次の替えが来ますね。そこで！私が着目したのは”学校”です！場所がなくなれば授業は死なないまでも存在する事が出来なくなるので死と同義語なのでは！こうしてはいられません理科室の薬品でも作れるような簡単でも威力のある爆薬を作成してきますね！待っててください30分もかからないと思いますので！と、言う訳で荒塚先生、薬品作成設置そして実行しなくてはいけないので早退しても宜しいでしょうk「次、135ページ室田読め！。」「コッコッ（平和だ…。）」「シリアス？なにそれ美味しいの？設定だけ馬鹿みたいにシリアスな近未来で繰り広げられる学園コメディ。そのうち悪の組織とかも出てくる予定。でも予定は未定。ギャグ&コメディ7割、シリアス2割、アクション0、9割、恋愛その他諸々が0・1割。

第一章 怪物と転校生（1）（前書き）

行き当たりばったりな小説ですが、時折気が向いたときにも楽しい気持ちで読んで頂ければなー、と思います。はじめはシリアスかもしれないです。本当に一瞬です。

第一章 怪物と転校生（1）

退屈な日常。

学校なんて腐った場所。

個々の才能の促進、自由な感性を育てる、人間関係を学ぶという名の下、子どもを小さな学校という箱庭に押し入れ、政府の言いなりになる人間にさせるべく洗脳、調教する場所なのだ。

勿論、こんな事を考えている馬鹿みたいに反抗的な奴もいれば、政府に取り入り少しでも良い思いをしようと必死になっている脳無し、そして流れのままに身を任せる俺のような人間。

だが、そんなこと口にする奴は一人もない。どんなに馬鹿だろうと、静粛されてしまつては元も子もないという事だけはしっかりと脳に刻まれている。恐怖政治は小さい頃から行われている。反抗しようなんて気持ちは削がれているのだから。

ここは比較的治安もよく、待遇もいい都市なので人々の不満も少なく、ゲートの外の事なんてみんな気にしたこともない。結局自分が可愛いのだ。

そんな腐った時代、腐った政治、腐った教育施設、腐った人間という環境だけが整えられた腐った世界で、俺、武藤和葉は生きている。

こんな、腐った思考を持つ同じ人間ばかりを育成する場所で、俺は周りの人間に馴染めず異端な存在。

人間は自分、そして大多数の人間と違うものを弾き出し非難するの

が好きなき物だ。古今東西世界中の人間はそうなのではないだろうか。外国に行けば多少は違うのかもしれないが、人間の本質は変わるものではない。醜い部分は尚更に。

俺が世間という枠組みから外されたのは、目立つ派手な容姿のせいもあるだろうが、決定的なのはこの身体能力ではないだろうか。それ以外に思いつかない。

体が丈夫だ。それだけを聞くと、風邪を引かないだのその程度のレベルかと思われるが全く違う。

きつと、校舎の屋上から落ちたって捻挫ぐらいで済むのではないだろうか。

人間ではない？いや違っだろう、俺は平凡な両親から生まれた平凡な人間だから。そのはずだ。別に、凄い血筋を持っていたり親がオリンピック選手だったりなんてそんなことはない。サラリーマンと主婦だ。

小さい頃から化けものだって言われてきた。幼稚園から中学校までずっとずっと。高校1年生になった今はあまり言われない、というか好奇の視線を送られるだけだ。だがきつと、心の中は化け物、異端者、と罵られているに違いない。

そんな事を考えていたら、馬鹿みたいに喧嘩して悪いことやって、っていう完璧な不良が出来上がった。笑える。

この学校という箱庭、そしてこの1-F組という更に小さな場所で腐った日常の繰り返しだった。

そんな世界に、君が現れた。

怪物と転校生(2)

「頭いてえ……。ちくしょう昨日飲み過ぎた。」

「せんせー！今日火曜日ですよ、月曜の夜から浴びるほど酒飲むってどういう神経してるんですか！馬鹿ですか！」

「先生はいきなり教師に向かって馬鹿とか言っちゃう橋本の神経を疑います。」

「せんせー、昨日すげえ美人つれて繁華街うろついていたのみたけど、どういこと！？何で先生？」

「おい高梨い…、何で先生ってどういう意味だゴルア。モテないからって先生をひがむんじゃありません。」

「繁華街ということは先生、どうせラブホ街とか行っただけでしょう？避妊はきちんとしましたか？」

「はいしました……。先生は朝のホームルームでラブホとか避妊とか言っちゃう坂木が心配です。女の子なんだから自重しなさい。仮にもお前すげえ優等生で眼鏡キャラなんだから本性隠せよ。」

机にうつ伏せになって寝ていれば、教師が5分遅れて教室に入ってきてホームルームを始める。

ぐだぐだとしたこの空気は毎朝のことで、死んでいるような目をした、顔だけはなんだか格好いい荒塚充彦あらかつかみつひこが頭を抱えて教卓に突っ伏しながら気だるげに生徒と話をしている。

「せんせー、一限目は体育だからぐだぐだくつちゃべってないでさつさとホームルーム済ませてください。」

「野崎さんが先生に冷たいのは何でだと思っお前ら。」

「先生が社会のゴミだからじゃないでしょうかね。」

「心が折れる前に転校生紹介しとくわ…。」

教室の空気がざわりと揺れる。

転校生って、何でそんな大事な事を置いておいて無駄なことばかり喋っているんだ！という空気だった。

それと同時に、転校生への期待。

「男ですか！女ですか！」

「先生は男です。」

「テメエの事なんて聞いてねーよクスが。」

「上等だ表でろや小野オ…。」

「どうでもいいので早く紹介してくれませんか？」

「……………。小日向ー、入ってこーい。」

しくしくと泣き真似をしながら、相変わらず気合の入らない声音でその名前を呼ぶ。

教室中の誰もが入口の扉を見つめる。普段はどんなことにも興味のない俺も、何故かその時は視線がクラスの奴等と同じ方向を見ていた。

入ってきたのは、小さな女の子だった。

怪物と転校生(2) (後書き)

今日は此処までで。明日の夜も更新予定ですのでよければ見に来て下さい。

まだまだ序章も始まっていない感じですので…。遠い目…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8677y/>

科学者と怪物

2011年11月26日00時55分発行